

Orkhon 河域の中に住みたるものと見るを得べし、新唐書薛延陀傳に、突厥の射匱可汗の疆かりし時、契苾・薛延陀の二部は可汗の號を去り、復た突厥に臣事したりしが、此の時「回紇・拔野古・阿跌・同羅・僕骨・白霽、在鬱督軍山者、東附始畢可汗、乙失鉢〔所部歟〕在金山者、西役葉護可汗」と記せり、茲に「在鬱督軍山者」と曰へるは、西方の「在金山者」と共に、鬱督軍山地方、金山地方に在るものゝ意なる可ければ、<sup>〔六四〕</sup>此等の諸部は、當時即ち唐初の頃にも、略ぼ此の地方に據りしものなること疑無きが、更に溯りて隋書鐵勒傳の記事を見るも、「獨樂河北、有僕骨・同羅・韋紇・拔野古・覆羅、並號俟斤、蒙陳・吐如紇・斯結(即ち思結)・渾・斛薛等諸姓勝兵可二萬」と記し、此等の諸部の、獨洛河即ち Tola 河北方の地方に居りしものなることを示せり、されば烏德韃山即ち鬱督軍山地方に在りし葛邏祿の一部と共に、裴羅を推して可汗としたる九姓といふものは、假令今精密に其の各部を定め能はざるにせよ、略ぼ此の地方に據りたるものと見て、決して誤無かる可く、從て當時可汗の勢の及びたる地方も、亦少くとも略ぼ此の地域の間に互りたるものなるべし。

此の如くにして裴羅は九姓可汗の位に上りしが、此の際更に Tola 河畔より更に南下して牙を Orkhon 河と烏德韃山即ち Ürükan 山との間に定めたるものにして、前記の如く唐書回鶻傳に裴羅が拔悉蜜の可汗を殺し、自ら骨咄祿毗伽闕可汗と稱するや、

南居突厥故地、徙牙烏德韃山昆河之間

と記せり、此の地が今の Kara Balgassun の廢墟に相當するものなることは、今更めて説くの要有る無し、<sup>〔六五〕</sup>唯漠北地方に在りて諸部を統一し得たるものが常に牙營を此の地方に定むるに至ること、前には突厥・薛延陀、後には蒙